

## 平成30年度 学校経営計画

### 1 学校教育目標

自立と社会参加を目指し、健康な心身の育成と社会生活に必要な生活能力の育成を図る。

<校訓> あかるく元気な子 なかよく助けあう子 力いっぱいがんばる子

### 2 学校の特徴

本校は、知的障害のある児童生徒の教育を目的として県下で最も早く設置された学校であり、小学部・中学部・高等部の3つの学部で構成されている。また、通学して教育を受けることが困難な児童生徒のための訪問教育や、集団生活を通して生活自立を目指すための寄宿舎が開設されており、本年度は全校児童生徒209名が在籍している。

- (1) 心の触れ合いを大切にしながら、個性を尊重した温かい人間関係と豊かな情操の育成に努めている。
- (2) 児童生徒一人一人の障害の状況や興味・関心を大切にしながら、それぞれの教育的ニーズに応じて、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、生活自立と社会参加に向けた指導・支援を実践している。
- (3) 健康で安全な生活習慣や態度が身につくよう体力づくりに努めるとともに、安全教育を計画的・組織的に実践している。
- (4) 家庭及び地域、関係機関等と連携し、開かれた学校づくりの推進に努めている。
- (5) 地域における特別支援教育のセンター的機能の充実を図るとともに、教員の専門性の向上に努めている。

### 3 学校の現状と課題

- ・本校は、重複障害児が約3割、自閉症スペクトラム障害等発達障害を併せ有する児童生徒が約5割在籍し、障害の状態も重度・重複化、多様化している。したがって、児童生徒一人一人の障害特性に応じた専門的知識や系統的・組織的な対応力が必要である。
- ・学習面や生活面、人間関係づくり等将来的な展望に立った教育的ニーズを的確に把握し、計画的な指導・支援の充実に努めている。今後は、よりきめ細やかなアセスメントを実施し、個別の指導計画に基づいた学習展開をしていく必要がある。
- ・児童生徒が心身共に健康で安全な生活が送れるよう、児童生徒の実態や発達段階に合わせた体力づくりを推進するとともに教育環境の整備に努めている。
- ・児童生徒への適切な支援のための合理的配慮や教育方針等に関して、保護者との合意形成を十分に図るとともに、地域や保健・福祉・医療・労働等の関係機関とネットワークを形成することで、家庭全体を支える体制づくりに努める必要がある。
- ・卒業後の生活を見通して、よりよい生活環境や就労環境を整えるための進路支援体制をより充実させていく必要がある。
- ・大規模校として、教員一人一人が、小学部から高等部まで連続性のある一貫した教育目標を共有するとともに、危機管理に関する意識を高め、不測の事態に対して組織的に対応できる学校づくりに努める必要がある。

#### 4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画		
1	学習活動	教務	目標	・小学部・中学部・高等部の発達段階を踏まえ、各学部間の円滑な接続や内容のつながりを図り、一貫性のある系統的、組織的な教育課程を編成する。
			計画	・「特別の教科 道徳」について、小学部での実施状況を確認しながら小学部・中学部間で系統性のある指導ができるように、中学部の教科書採択、指導内容や目標、評価例など体制整備を進める。
		各学部	目標	・児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた、効果的な学習指導及び支援に努める。
			計画	・各教科及び各教科等を合わせた指導のねらいや児童生徒の実態に応じた指導方法について、共通理解を図る機会を設定し、一人一人の指導・支援に生かしていく。
		研修	目標	・児童生徒の知的障害の状態等に即した指導を進めるために必要な知識を身に付け、専門性の向上を図る。
			計画	・特別支援教育に関する用語集の作成と活用をとおして、用語に関する理解を深め日々の教育活動に生かす。 ・自己診断項目表を作成し、自己診断を行って今後学ぶべき事柄を整理する。
2	学校生活	保健	目標	・児童生徒が、健康で安全な生活を営むことができるようにする。
			計画	・健康で安全な生活を営むために清掃活動を推進し、いつも清潔な状態を保とうとする児童生徒の意識や態度を育成する。児童生徒自身が一人一人できる清掃活動に取り組むことで環境保全や衛生管理に努めるように指導する。
		生徒指導	目標	・安心安全なスクールバス運行のための体制整備を図る。
			計画	・ <b>スクールバス運行会社の介助員、運転手と会議を行い、運行に関する共通理解を図る。</b> ・児童生徒及び教員や保護者にスクールバス乗車における、ルール等についての周知徹底の機会をもつ。
		寄宿舎	目標	・舎生一人一人の自立を目指し、日課の中で支援を共有し、生活に必要な態度や習慣を養う。 ・緊急時に職員がスムーズに対応できるように、様々なケースの対応訓練等を通して専門性の向上を図る。
			計画	・「生活の記録」を用いて、職員間で舎生の実態を共通理解し、きめ細かな支援を行う。 ・行事や地域・ボランティア団体との交流により、経験を広め余暇の充実に努める。 ・けがや事故を想定し緊急対応訓練を実施する。

3	進路支援	進路指導	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の児童生徒に応じた進路指導を行うため、教員及び保護者、生徒に進路に関する情報提供の充実を図る。</li> <li>・卒業後の職業生活・家庭生活の充実を目指し、個々に応じた進路選択ができるよう進路相談の充実を図る。</li> </ul>
			計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒一人一人に応じた進路指導が行えるよう、福祉サービス利用についての説明会を実施したり、進路に関する情報をHPや校内掲示、進路相談の際などに伝えたりし、適宜、最新の情報提供を行う。</li> <li>・関係の職員間で各生徒の進路希望の状況や進路相談の内容、就業体験での評価などの情報を共有したり進路指導の方向性を確認したりする場をもち、適切な進路指導、進路相談を行う。</li> </ul>
4	特別活動	特活	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が主体的に生徒会活動に取り組めるよう支援の充実に努める。</li> </ul>
			計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の年間計画を立て、生徒が見通しをもって活動に取り組めるようにする。</li> <li>・活動の場や時間の設定等、支援方法を工夫し、積極的に取り組める環境を整える。</li> </ul>
		図書	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書環境の充実を図り、児童生徒の読書に対する興味・関心を高め、読書活動の推進を図る。</li> </ul>
			計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が利用しやすい図書室の環境づくりを行う。</li> <li>・生徒会図書委員会を中心として児童生徒にとって親しみやすい図書の紹介を行う。</li> <li>・児童生徒の生活年齢や発達年齢、障害の特性に応じた図書を選定し、読み聞かせを実施する。</li> </ul>
5	その他	教育相談	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内支援の充実と、特別支援教育のセンター的機能の向上を図る。</li> </ul>
			計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内で活用されている教材や支援方法を収集し、校内（外）へ紹介する。</li> <li>・ケース会議への参加を通して教員一人一人の専門性が高まるように、効果的なケース会議の運営に努める。</li> </ul>
		総務 <b>重点課題2</b>	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA行事を見直し、PTA活動の活性化を図る。</li> </ul>
			計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>学部別授業参観日に各学部の担当役員が中心となり、学部別活動を運営する。</b></li> <li>・各学部の特色や保護者のニーズを考慮し、保護者が参加しやすい活動を計画する。</li> </ul>
		情報 <b>重点課題3</b>	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員のICT活用能力・技術の向上をめざし授業等において積極的な活用を目指す。同時に校内LAN、執務用PCの安全で効率的な運用を図る。</li> <li>・情報管理体制を整備し、児童生徒の個人情報の保護を図る。</li> <li>・職員によるサーバー内の教材データ等の蓄積・共有化・活用の促進を図る。</li> </ul>
			計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>ICT機器の有効活用および情報管理に関する研修を推進する。</b></li> <li>・執務においてコンピュータの効果的な活用を促進するとともに、分掌業務、会議等の効率化を図るため、フォルダ内の環境を整える。</li> <li>・共有データを蓄積し、活用しやすいように各分掌各学部と連携を図る。</li> </ul>

## 5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

平成30年度 高岡支援学校アクションプラン（生徒指導部） - 1 -		
重点項目	学校生活（通学指導）	
重点課題	安心安全なスクールバス運行のための体制整備を図る。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の児童生徒の90%程度は、5系統のスクールバス（新湊・小杉・戸出・福岡・氷見）を利用して通学しており毎日の安全な通学は、充実した学校生活を送る上で大変重要である。</li> <li>・スクールバス利用に際して、保護者には「スクールバスを利用する場合について」を配付して安全確保のための配慮事項を示しているが徹底されず、保護者が送迎に遅れたり、児童生徒が乗車中に体調不良を訴えたりするなどのトラブルが絶えない。</li> <li>・気象状況等の影響を受け、緊急の判断や対応を求められることが多くなった。</li> </ul>	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールバス運行会社との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒及び教員や保護者にスクールバスの乗車におけるマナーや配慮事項の周知</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールバス運行連絡会議の開催（年6回）</li> <li>・多様な緊急時の対応を整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1週間分の日誌の回覧（毎週）</li> <li>・PTA総会等や保護者案内での保護者へのマナーや配慮事項の周知（年4回）</li> <li>・児童生徒へのバス乗車に関するマナー等の指導（年3回）</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校にてスクールバス運行連絡会議を開催し、安全な運行についての配慮事項、緊急時の対応等について話し合い、共通理解を図る。</li> <li>・想定される緊急事態の対応をマニュアル化し学校と運行会社間で共通理解を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運行日誌を定期的に回覧し、スクールバス車内の状況を共有し、学級での指導に反映できるようにする。</li> <li>・保護者説明会等において、スクールバス利用のマナーや配慮事項を伝える。また、毎学期初めに、保護者案内を配付する。</li> <li>・学期はじめに教員がバス添乗指導を行い、児童生徒への指導を行う。</li> </ul>

重点項目	その他 (開かれた学校)
重点課題	P T A活動の活性化を図り、行事への参加率を高める。
現 状	本校は5年前にP T A組織を見直し、新たに学部委員会を立ち上げた。「つなぐ」「楽しむ」「学ぶ」の三つのキーワードに基づいて、毎年2回、災害時引き渡し訓練や茶話会、福祉サービス事業所の利用相談会などの学部別の活動を行ってきたが、参加者は多いとはいえない。一因として、本校児童生徒の居住地が広域にわたっているため、保護者間のつながりが希薄であることが挙げられる。P T A活動を活性化させ、保護者間の横のつながりを深めるためにも、P T A行事を充実させる必要があると考える。
達成目標	学部別活動の参加率 40%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P T A役員と学部委員会が中心となり、学校と連携しながら学部別活動を企画、運営する。</li> <li>・ 各学部の特色を考慮したり、保護者のニーズを事前に調査したりすることで、保護者が楽しく学べる活動内容を考える。</li> <li>・ 活動内容が分かりやすく、参加意識が高まるような案内文書の作成を心掛ける。</li> </ul>

重点項目	その他 (I C T機器の活用)
重点課題	教員のI C T活用能力の向上を図る
現 状	現在、本校においてはタブレット型情報端末機器 (iPad) を11台保有しており、一昨年度の調査では教員全体の64.6%が利用している。昨年度までその利活用について様々な研修を積み、授業等で活用している教員の割合は増加傾向にある。しかしながら、現状の11台では一斉授業で複数台同時に使用したり、継続的に使用したりすることが困難な状況になってきている。また、研修会や事例報告会を企画しても、多忙化のおり、十分な時間が取れなかったり、一部教員の負担が増大したりするなどその弊害も見られるようになった。タブレット型情報端末のみならずI C T機器全般について教職員が自由に使いやすい環境を整備していくことが急務である。
達成目標	授業等でI C Tを活用した教員の割合 75%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ iPadなどの保有台数を増やしたり管理の方法を工夫したりするなど、多くの教員が使いやすい環境を整備する。</li> <li>・ 研修会のあり方を見直し、小グループによる話し合いやグループウェア、メッセージー等で教員同士が気軽に情報交換できるような方法を考える。</li> </ul>